

近江商人の知恵と理念を現代に生かす情報紙

AKINDO 委員会

さんぽう

三方よし

第11号

1999/1

CONTENT

特集 盛岡の高島商人を語る／金言名句⑩	2~3	バージョンアップセミナー 受講生のその後	6~7
シリーズ「戦国の武将 蒲生氏郷 <small>あひさんど</small> と商人(2)」	4~5	催し案内／てんびん棒	8



三方よし 「三方よし」は近江商人共通の経営理念。「売手よし 買い手よし、そして世間よし」の精神で地域社会に大きく貢献した。本紙は近江商人を代表する理念を表題としている。

松阪城跡近くの御城番屋敷

特集

盛岡の高島商人を語る

ふるさと探訪ウォーク特別講演より

岩手滋賀県人会会長 駒井 健



毎年好評のAKINDO委員会主催の近江商人のふるさと探訪ウォークが、本年は高島町で開催されました。町内の探訪に先立ち、「みちのく盛岡の近江商人群像」の演題で盛岡における高島商人についての講演が高島町民の一般参加をも得てガリバーホールで開催されました。

近江商人末裔会の発足

人気を博した清酒「秋乃露」蔵元福井家でご当主が説明



平成元年から「あきんどウォーク・世界大会」のプレイベント

が始まり、私が岩手大学に在職していた時に、彦根出身で農学部教授の丹羽太左衛門氏が岩手県の滋賀県人会の会長としておられて、滋賀県人会への参加を勧誘されました。当初はオブザーバーのつもりで参加していたのですが、滋賀県出身の方々や近江商人の末裔の方々とお付き合いをしている間に、次第にルーツの情報も薄々とわかってき、興味を覚えるようになってきました。

先祖は北船木の出身

丹羽先生の後の滋賀県人会の会長は、小笠原三吉さんでした。小笠原さんも、もとは駒井性で、お祖父さんが大きな酒屋さんの番頭さんに見込まれて、娘の婿になり小笠原姓に変わってのです。オブザーバーのつもりで入った滋賀県人会で、気がつくくと小笠原さんの後の会長となっていました。

このような時に「あきんどウォーク」のプレイベントが始まり、滋賀県人会には少々なじめない近江出身者とともに「近江商人の末裔会」を発足して「あきんどウォーク」のプレイベントへ臨みました。

盛岡の城下町建設に貢献した高島商人

とへの寄稿の依頼があり、私の知る範囲でご先祖について書いたところ、安曇川町から、私と同じ先祖を共有するという駒井正見さんがあらわれました。そして手紙で、屋号も、家紋も、ご先祖の名前も全く一致しているというので、すっかり感動したものです。

その後、始めて、ふるさと安曇川町北船木を訪問しました。今は、盛岡から安曇川町の駅に着くまで大体七時間ぐらいで、先祖の地を踏むことができます。かつては、大溝から盛岡へ向かって陸路歩くと三十三日と十七時間かかるという記録が残っています。こんなに多くの日数を掛けて、陸奥の東北に出かけるには、多くの不安を感じながら、身内、兄弟、家族と水杯を交わして出たのではないかと思います。長い時間をかけて苦勞して盛岡に出てきた人の中には、小野組のように、悲劇に出合ったもの大成功した近江商人もあり、また名もなく消えていった近江商人の方々も多数いたことでしょう。

つたのは、村井新七で、慶長十六年に岩手県の遠野の小友というところに来ています。そして、慶長十八年には盛岡城下町の上ノ橋という、商業地としては一等地に店舗を構えます。ここは村井新七に南部侯が与えたもので、やがて、城下町の商業核を造っていきます。

南部侯は京都で、京都のまちづくりを見て、南部藩の城下町づくりを考え、四〇一年前に盛岡に商人町や職人町を配した城下町を建設しました。その後、村井権兵衛をはじめ、多くの人々が近江から盛岡にやってきました。村井市左衛門を含めた三人が盛岡での近江商人の三始祖となりました。

村井新七は養子縁組を繰り返して、酒屋、あるいは靴屋を開業して商売を拡大していききました。そして小野権兵衛(後で村井姓を名乗るんですが)は、「近江屋(新七家)」に仕えた後、少し南の志和村という山手のほうに引っ込んで、酒造りを始めました。権兵衛が酒造りをしたところは、いまでは大きな杉の木に囲まれて空地になっていますが、地元では、その跡地を「権兵衛酒屋」と呼んでいます。

最初に近江から盛岡に出て行く

当時、東北・陸奥では「どぶろく」と言う濁り酒を飲んでい



大満祭の山車も特別に出演した高島町ウォーク

たのでしたが、盛岡城下町から少し離れた日詰郡山近くの港湾都市に「権兵衛酒屋」をつくり、すみ酒を供給しはじめたのです。このすみ酒は評判となり、権兵衛は、この酒づくりで一氣に財を成しました。男はすみ酒を飲み、そして女性たちは、近江商人が上方から持ち下った木綿の古着をこぞって購入したといひます。

当時の岩手には、砂金が産出され、人々はお守りのような形で袋に入れて持っていました。近江商人がすみ酒や古着の販売の際に砂金を使うことを奨励したことで、砂金を貨幣とし

特殊技能の持ち主であった高島商人

一氣に使いはじめました。その砂金は「南部砂金」といい、非常に純度が高く、近江商人がこの砂金を江戸に持ち上がったので金貨に換え、さらに銀本位の大坂で金貨を銀に換えると、ちょうど砂金割りから順番にいくと五割増しぐらいの価値に大きくなつたといひます。

さて、その村井新七が近江から出てきて最初に出掛けたのが、なぜそんな僻地であったかということですが、岩手大学の

経営経済史の森 嘉兵衛先生の話では、「近江商人は盛岡に来るときに商いの手法のほかに産金(金を探す方法)や、すみ酒を造る技法という特殊な技術を隠し持っていた人があつたであろう」と言われました。このことは、村井新七が遠野の小友という僻地に行つたことや、村井権兵衛が酒屋で資産を成した理由が理解できます。

盛岡市には、藩政時代からの先人を記念した先人記念館があります。有名な米内光政、新渡戸稻造など岩手出身の文人等とともに近江商人の方々も先人として含まれています。

先年、ここで「近江商人群像」という企画展が開催されました。この催しは盛岡において近江商人が非常に尊敬のまなざしで評価が高いというを示しています。歴史的にも、藩政時代の功勞の面からいっても、藩財政を支える商人群像のなかに近江商人が上位に並んできますし、あるいは冷害・飢饉等で炊き出し、寄附、あるいは救済措置をとるときに近江商人は進んで協力しています。

ご先祖にただ感謝

全国的には近江商人が揶揄さ

れていることもあり、「近江商人が歩いた後には草木も生えない」とか、函館では「伊達商人が歩いた後には草木も生えない」といわれていました。商人に対する評価が非常に略奪的な感じであるという問題がありますが、盛岡の場合には、近江商人の末裔であるわれわれが小さくなつて暮らしていることはありません。

近江商人といわれる人々の多くは、近江八幡や日野、湖東地方から出ておられますが、東北には高島系の商人が続いて、日野、八幡、そして湖東地方からも入ってきています。私たち近江商人の末裔たちは、ご先祖のおかげをもちまして、そして新しくは最近、高島町、安曇川町、あるいは滋賀県のAKINDO委員会との交流を深めながら、ますます元気に誇り高く未来に向かって生きていこうとしております。

近江商人の金言名句 ⑩

諸家方館人之儀、堅可相断事

中井家・分家京都店「家法書」より

子々孫々に至るまで、決して公家や武家の御用商人等となり、「権益」に飛びついてはならないと戒めたものである。古今東西を問わず、時の政治権力に取り入り門閥的な特権商人や政商として様々な利益を得た後、没落していった商人や企業の事例は枚挙に暇がない。

近江商人の中にも、名目金のように巧みに時の政治権力を利用した事例や御用商人に取り立てられた結果、明治維新を乗り切れずに没落する者がいたなど、事實は必ずしもその通りには行かなかつた場合も少なくない。しかし、成功した近江商人の事跡と考え合わせれば、彼らが時の政治権力の庇護に期待することなく、自主独立の精神に燃えていたことは疑いのないところと思われる。

政治家と経済人の倫理観の再構築や企業の自己責任原則が厳しく問われている現在、自戒すべき教えではなからうか。

連載

戦国の武将 蒲生氏郷と商人あきんど (2)

松坂城下町の建設 そして会津若松へ

郷土史家 瀬川 欣一

氏郷による日野の繁栄

戦国の世相が続きに続いた果てに、彗星のごとくに現れた織田信長という稀代の武将が、ようやく全国制覇をしようとしていたその頃、天下の権力者であるその信長の娘、冬姫を娶ることができた蒲生氏郷は、岳父である信長が岐阜城の城下町で布いた領国経営のやり方をそのまま取り入れて、近江日野の城下町にもすぐに楽市楽座などの制度を設け、見る見るうちに城下町日野を栄えさせていくのでした。

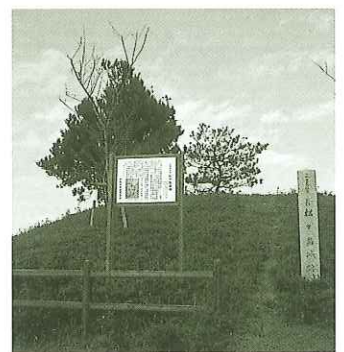
この氏郷による日野の城下町での商工業保護政策が、江戸時代の初期から続々と輩出してい

く、日野における近江商人の基盤をつくっていくことになりました。こうして天正十年(一五八

二)の前後が、城下町日野の最も繁栄した時期となります。ところが、繁栄の絶頂にあった日野が、突如として、急転直下の衰退をしていく事態が起こりました。



松坂城



松ヶ島城跡

した城ですし、伊勢の国の各地には、秀吉に従わない残存の敵がまだまだ数多くいるのが現状です。それら反秀吉の勢力をすべて討ち果たしたら祿高が十二万石になる、という苛酷な国替えだったのです。

けれども絶対権力者の前には逆らうこともできません。天正十二年(一五八四)六月の半ば、鎌倉時代以降の四百年間に及んだ、蒲生氏代々の領国日野に後る髪を引かれつつ、与えられた新しい城である松が島城をめざして、氏郷は、ふるさと日野の土地を離れ鈴鹿峠を越えていくのでした。

信長亡き後の天下人となった羽柴秀吉から蒲生氏郷に対して、伊勢の松が島城へ移れとの国替え命令です。思いも掛けないうこの命令に氏郷自身も驚いたでしょうが、それ以上にびっくりしたのは、先祖代々を蒲生家に仕えてきた多くの家臣であり、城下町での日々をいきいきと暮らしていた職人達であり商人達だったでしょう。

いま三重県松阪市松崎町にある一面の畑の中に、その松が島城の跡が一つの小さな丘になって残されております。その当時は伊勢湾に臨む海沿いであつて、堀に海水を満たしていた水域さながらの城だったとも伝わります。

伊勢を平定して松坂城下の建設へ

松が島城の城主となった氏郷には、連日にわたる合戦の日々が待っていました。だが約半年の間にそれらの残敵をことごとく制圧し、降伏してきた敵の殆どを家臣団に組み入れていきま

すと、松が島城が極端に狭くならず、新しい城を造らねばならなかった、四五百よほのちり森という独立丘を新しい城とするための突貫工事を強行、同時に丘をめぐる平地



松坂城の石垣

に城下町造りの工事を始めました。それが今に伝わります松坂城であり、その城下町松坂市なのです。

むろん日野で行ってきた城下町繁栄のための楽市楽座をただちに実施し、商工業の町を造るために、日野にいる多くの職人や商人を呼び寄せました。旧主氏郷様からの招きです。しかも前途に夢がふくらむ新しい城下町づくりへの参加です。日野の人々はわれもわれもと氏郷を慕って、新都市である松坂へ移住していき、またたくうちに松坂の街は、伊勢の国で第一の賑わいを見せるようになっていきました。

この時に松坂へ移っていった日野の商人達が、伊勢ではそれまでには見られなかった楽市楽座の商業活動を、はじめてその町筋で行った名残りの地名であり、松坂市が三重県を代表する商工業都市として発展を続けているのも、氏郷が商工業保護政策を積極的に進めたからこそと言えましょう。

その一方で、あれほど栄えた日野の町は、中心となっていた城も消え、軒を連ねていた家々も次々と壊され、年を追うごとにみるも無惨な姿へと変貌していくのでした。だが、この城下町日野の衰退もまた、その後につく、行商を中心とした初期の近江商人活躍の遠因にもなっています。

再度の国替えて会津の地へ

松坂城の完成が天正十六年（一五八八）です。城の完成と共に新しい城を松坂城と名付け、城下町もまた松坂と命名しました。その松坂とは、蒲生家の家紋が立鶴であるところから松に鶴の吉縁にちなみ、ちょうどその頃に秀吉が構大な城を完成させて大坂城といたしますので、大坂の坂の字を貰って松坂という新しい地名と城の名にしたのでした。

（注）現在の松坂の名称は明治の町村制によって「坂が「阪」に変更された」

三層の白亜の天守閣がそびえる新しい城下町が、こうして伊勢の国第一の都市になろうとしていた矢先、氏郷にとっては痛撃極まりない、またまたの国替え命令が秀吉から下されました。やつと城も城下町も、その機能が整うたばかりの時です。

天正十八年（一五九〇）七月。三十六万人の大軍で小田原城に立て籠もって北条氏直を降した秀吉は、関八州を徳川家と与え、その家康を牽制するために勇猛の将でもある氏郷を、その北の要衝である会津黒川城四十二万石の城主に据えました。無気味な動きをしていた奥州の

雄、伊達正宗の鋒先を封じ込めるためでもありません。

氏郷については松坂へ戻ることもできず、小田原城攻めに率いてきた四千人の将兵と共に、そのまま会津黒川へ赴くのでした。使者によって又もやの国替えを知らされた松坂の人々は、どれほど驚いたことか。近江から隣国の伊勢へ移るのではなく、今度は二百里以上も離れた、しかも蝦夷の地と言われている奥州の会津です。戦国を生き抜く武將の運命とはいえ、氏郷にとっては悔しさ余りある国替えだったことでしょう。

黒川城に入ってすぐに、黒川の地名を若松に変えます。自分にとつての松の字が吉祥であると共に、日野城の近くにあった「若松の森」を偲んでの「若松」であったと伝わります。これが現在の福島県会津若松市の地名の由来なのです。

その頃の奥州全土は秀吉に服しておらず、着城早々から明けも暮れてもの合戦となり、ようやく約一年を費やしてすべての敵を蹴散らせて、有名な七層の天守閣を持つ鶴が城の築城に掛かる頃には、徳川家康、毛利



松坂商人の商家が並ぶ魚町



松坂市に残る「日野町」は近代的な商店街となっている

輝元に次ぐ天下第三番目、九十二万七千石の禄高を持つ大大名となっておりました。

時に氏郷は三十六歳の壮年期でした。

前号で著者のご氏名が欠落しておりました。本シリーズは瀬川欣一さんにご執筆いただいております。

しなやかに パワフルに ただいま奮闘中

—バージョンアップセミナー受講生のその後—

第3回
働く女性のための
バージョンアップセミナー



AKINDO委員
会では、平成八年
より女性が仕事を
するための協力体
制の強化や環境づく
りをめざして、「バ
ージョンアップセミ
ナー」を開催してき
たが、受講生のみな
さんのその後の状況
はさまざまである。

すでに活発に事業
を展開している人、
資格を取得しなが
ら、社会の状況の激
変で思うように進展
していない人もいる
反面、精力的に事業を推
進しているそんな人々を
紹介することとした。

第三回を迎えた「バージョンアップセミナー」は企画、運営に受講生が参画

今年の働く女性のためのバ
ージョンアップセミナーは、十一
月二十八、二十九日に近江八幡
市の県立女性センターにて開
催。本年はAKINDO会議の
女性メンバーと第一回受講生の
高田さんとの共同作業によって
企画、運営を行った。

テーマは「幸せな自分をさが
す」

志をともしにする仲間のネットワークが広がって

あてやかなフアッションで登
場された三竹洋子先生は、ご自
身の豊富な体験と女性としての
的確な視点での講演は終始なご
やかな雰囲気にも包まれ、緊張気
味の受講生の気持ちも解きほぐ
されていくのが感じられた。各
方面でご活躍の後、現在は実質
の経営権を委譲されているが、
主婦という立場の重要性、教育
者としての女性の大切さなどを
力説、肩肘をはずらずに前進す
ることを指導いただいた。三竹先
生の招聘には、第一回受講生の
高田千晶さんが熱心で、その熱
意でご出席が得られ、当日の運
営および進行は女性起業家セミ
ナーの前身であるパワーアップ
セミナーの参加者で現在AKI
NDO会議メンバーとして活躍
の千代早苗さんとその仲間の

人々による手作りのセミナーと
なった。

司会進行の高田千晶さんは、
本年十月から「ふうど プラン
ニング ねぎ」を開始したばか
り。ご主人の九条ねぎづくりを
手伝うかたわら、各地での女性
の活動に参加し、刺激を受けて
きた。そして、食材としてのネ
ギの販売から、さらに大きな視
野での「食」を考え、ネットワ
ークで知り合った人々のアドバ

して」とし、人脈づくり、ネット
ワークづくりを主眼におい
た。講師には女性の社会参加、
生活者の視点を入れた企業経営
などをテーマに起業コンサルタ
ントとしてご活躍の三竹洋子
氏、独自の経営哲学を生かした
アドバイスが好評の八木 武
氏、人材育成、企画等を手掛け

る(術)ハーランド・プロジェクト
代表の島田智津子氏を迎えて、
とくに参加者のみなさん同志の
コミュニケーションを重視した
セミナーは、内蔵する心の悩み
や起業への踏み切りへの意思決
定に重点をおいた本セミナー
は、自分発見ができることを目
的とした。

イスを受けながら自分の事業を
開始。日本人の食生活に欠かせ
ない名脇役のネギを扱っている
者からのメッセージを発進しよ
うと自分を奮い立たせている。
三竹先生をとおくお願いしたの
は、自分の気持ちと先生の考え
が合致するところにあつたから
で、「女性が日常係わっている
生活である衣食住、教育、福祉、
環境、地域の分野から小さな情
報が集まり点から線に、さらに

面に広がり形のあ
るものになってい
く時、社会に一石
を投じる役目があ
る予感がする。」
というのが高田さ
んの持論である。



「心を伝える服」づくり が一貫したテーマ

古野雅子さん (京都市)

コピーライターを皮切りに広告業界で十年のキャリアを持ち、一九九五年に「SOUL WORK」を発足してファッションの仕事を開始し、着実に実績を重ねてきている。資金の運用がまだまだ未熟らしいが、セミナーでの事業計画の書き方についての講義は役立った。またすばらしい出会いも受講した大きな成果であった。お子さんの死産という不幸な出来事が、きっかけとなり、自分のやりたいことを精一杯やろうと、素直な気持ちになったことが、いい結果になり、長年の広告業界での経験を生かしたマスコミの利用が成功している。三十歳ころから服飾の仕事に携わりながら、一方で空間コーディネートネットのコンセプトづくりや企画にも参画し、エッセイやコラムの執筆も多数こなすという非常にパワフルな活動を展開している。



心を伝える服、ソール ワークの作品

「エイヤツ！」の掛け声で 事業が始まった

アンケートのどれもが、とくに力んだり、変に野望を満たそうと意気込んだりすることなく、非常に自然体で自分の性格を的確に分析しながら活動しているということである。男性なんかには負けなかとキヤリアウーマンが闊歩した時代があったが、受講生のみなさんには肩の力を抜いたしなやかさとともに、「エイヤツ！」と思いついて行動に移したパワフルさが感じられる。宅建資格を取得したものの不動産業界が縮小傾向で、夢を断念し、そうになった人、自分の夢実現のために少し時間が必要かなと考える人、開業はしたものの体調不良となり休業状態の人、現状は様々であるが、仲間の行動を参考にめげずにがんばってほしい。紙面ではごく一部の紹介とする。

清水さんのお店に飾られた
表情豊かなカントリドール



カントリドールのお店「無倫工房」 清水美智子さん (八日市市)

ご主人の仕事から、周辺に豊富な材料があり、ご自身がドールづくりが好きだったことが、お店と教室を開くきっかけとなった。残り布のりサイクルができることも大きな魅力だ。教室では三十五名の生徒さんを指導しつつ、婦人会や農協などでの講習会の依頼もあり、カントリドールの人気が高まっている。夢実現のためのアプローチの手法が見つからず、実を結ぶところまで進展しないことが最大の課題だが、セミナーで得られた多くの情報が少しずつ成果をあげている現状らしい。

注/カントリドール―不格好で、ボロボロだけれど大人になっても心に残った一つの手作り人形。これがカントリドールの原点で、アメリカの開拓時代に女の子の遊び道具として誕生した母親のオリジナリ、あふれる人形のこと。

リサイクルを念頭に 古民具と無農薬コーヒーのお店「凜凜亭」

浅野博子さん (大津市)

閑静な住宅地にある自宅を改修して、本年七月に念願のお店を開店。日頃から環境問題に関心があり、環境になるべく負荷をかけない暮らしを実践してきた経験から、雨水利用のトイレを設置し、喫茶コーナーでは無農薬栽培のコーヒーや国産小麦粉使用のケーキなどにこだわりをみせている。「大津の町家を考える会」に参加して、商店街付近で捨てられていく古道具を再生して活用できるお店を持ちたいと空き店舗を探していたが、結局見つからず、自宅を改修しての開店であった。改築経費を必要としたが、家賃を支払わずにすんだことが今となっては、楽な気持ちで運営ができています。

寒い中で凜と咲く梅の木のように、正直でござらず、卑下せず、目的に向かって生きていきたいと思いついて「凜凜亭」と命名したと言つ浅野さんは、その言葉どおり、肩肘はることなく、家族を犠牲にすることなくマイペースで歩んでいる。住宅での開店で多少の障害があったらしいが、それもお自身の明るい、めげない性格でクリアしているようだ。セミナーでの助言のとおりには進まなかったものの、開店してよかったというのが本音。好きな古民具に囲まれて笑顔を見せる浅野さんである。



FP(ファイナンシャルプランナー)として独立、 そしてパン屋も開業

熊本真知子さん (京都市)



第一回受講生の熊本さんは保険会社に勤務時にFPの資格を取得。セミナー受講後の平成九年に総合インフォメーションを設立して、外資系、国内系の併せて数社の総合保険代理店となった。本格的な金融自由競争時代に入社した社会情勢の追い風を受け、勤務の経験と資格取得によって業績は順調に推移している。本業とは別に本年秋には、草津、堅田にポロニアペーカーリーの店をオープン。FCのパン店も滋賀県内で今後も出店をすすめたいとの意向がある。パン屋は本業とは無縁ではあるが、ご自身がパンが好き、そしてお客さまからの勧誘があり踏み切った。かなりの資本投資も伴うが、自分のこれまでの仕事を通じての蓄えですべて調達できている。受講時には、事業開始するとういうのはっきりとした目的はなかったが、大勢の女性が起業をめざしていることに大きな刺激を受け、決意をあらたに開業した。

1999年版 近江商人カレンダーが できました。



長びく不況下、決定的な解決策がなく、
いっそう険しい状況が続いております。
近江商人が活躍した時代も江戸時代の不
況期であり、そんな中で果敢に商いを展
開してきた先人の経営理念を改めて見直
してみようと、本年は「混迷からの脱出
策」をテーマに作成しました。ご希望の
方には送付いたしますので、詳しくは事
務局までお問い合わせください。

能力重視
お申し込み先
本津市京町四丁目一
滋賀県中小企業振興課内 AKIINDO委員会
〒077-5131 四六四一
〒077-5181 四八七九
E-mail: akiindo@mx.biwawa.or.jp

AKIINDOセミナー99講演会開催のお知らせ
ジャスコ会長 岡田卓也氏、
多摩大学教授 望月照彦氏を講師に開催

日時 平成十一年二月二十四日 午後一時三十分
場所 滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール中ホール
入場は無料ですが、入場整理券が必要です。ご希望の方は官製は
がきまたは、電話、FAX、EメールでAKIINDO委員会までお
申し込みください。詳しくは事務局までお問い合わせください。



読者からのおたよりが事務局に届きましたので、概要を「紹介
いたします。今後、皆様からの情報や紙面についてのご意見など
随時掲載していく予定をしています。近江商人に関する各地の情
報や新しい発見、または商いに關することがらなど事務局までお
寄せください。

「近江商法と現代商法」の関連をとりあげてはどうか 船橋市 遠山順一様

三方よしの刊行を続けておられるご努力に深く敬意を表します。この情報誌
が面白くて全国の注目を集めればよいと考へ、御誌への感想と提案をこせてい
たきます。毎号の編集にご苦勞されておられますが、現代商法との関わりを
とりあげられたらいかげんか。例えば「バブル商法と近江商法」「近江商
人の子供の教育」「近江商人の政治との関わり」「近江商人の発想で未曾有の不
況が脱出できるか」など具体例を引用してみても如何でしょうか。近江商法は
ビジネスだけでなく、人間の原点に深く係わっているように考へます。近江商法
の原点をキャンペーンするぐらいの前向きな姿勢が必要で、日本中の関心を
集める情報誌として近江発「世界向け情報誌」の色彩を深めていただければと
考へます。近江商人は古くて新しい存在と考へてまいりますので不況脱出の有力な
戦略が近江商法かとも思っています。ますますのご発展を祈ります。

【編集部より】貴重なご意見ありがとうございます。本年作成の近江商人カレンダー
では不況時の近江商人を取り上げています。現代に生かす近江商人の商法と理念
が当委員会の最大の目的ですが、力量不足で歴史的認識にまだ終始している事実を
大いに反省しております。今後ともご指導よろしくお願いたします。

AKIINDOセミナー99開催および受講生募集のお知らせ 本年のテーマ「創造者たちの見る風景」 ——日本の原像、商いの原像——

AKIINDO委員会では平成四年より二十一世紀への経済社会に
対応できる経済人の育成を目指すことを目的としてセミナーを開催
してきました。本年はクリエイティブな現場でご活躍の作家五木寛
之氏三名の講師による「ひらめきの角度」を見いだすことを主眼
として開催いたします。講師の独自の物事の見方を吸収して、新た
なフィルター（角度）を身につけていただきたいと考へております。
多数の受講をお待ちしております。

日時 平成十一年二月四日午後五時～六日午後四時まで（二泊三日）
場所 長浜ロイヤルホテル
定員 二十五名（定員になり次第締め切り）

受講対象者 業種、役職、専門分野は問いませんが、時代認識に富
み意欲的に二十一世紀に挑戦しようとする若手経営者、経済人
受講料 四五、〇〇〇円

申込書に必要事項を記入の上、郵送かFAXにてお申込み下さい。

てんびん棒

近江商人と言えば、日野
商人、八幡商人、湖東商人
が大きく取り扱われ、近江
商人として一番早く進出し
た高島商人が報じられるこ
とはほとんどない。

故小倉栄一郎滋賀大学名
誉教授は『近江商人の系譜』
の中でも、「高島商人の奥州
進出はきわめて早く、八幡・
日野の商人よりも相当に古
い。（中略）」ところがその研
究は地元の江州では空白が
多い」と語っている。この

空白の大きな部分を満たしたが、
『小野組の研究』（宮本又次著）であ
るが、地元高島郡では、それでも
江戸時代より盛岡（奥州）と交流が
あったことを知る人々は、ほとん
どいなかった。

しかし、昭和六十二年、高島郡
内の人々から、『高島商人』や『小野
組の基礎を造った人』という読み
物が出されて以来、高島郡内の町
役場主催の岩手訪問ツアーがしき
りに組まれ、岩手県と高島郡との
交流が俄かに盛んになった。この
ことより、交流活動は、地元民の
エネルギーの高まりが大切である
といえる。

また、今の不況を乗り越えるため
にも、商品流通と同時に地域間の
人的交流も見逃せない。
(K)

PNR